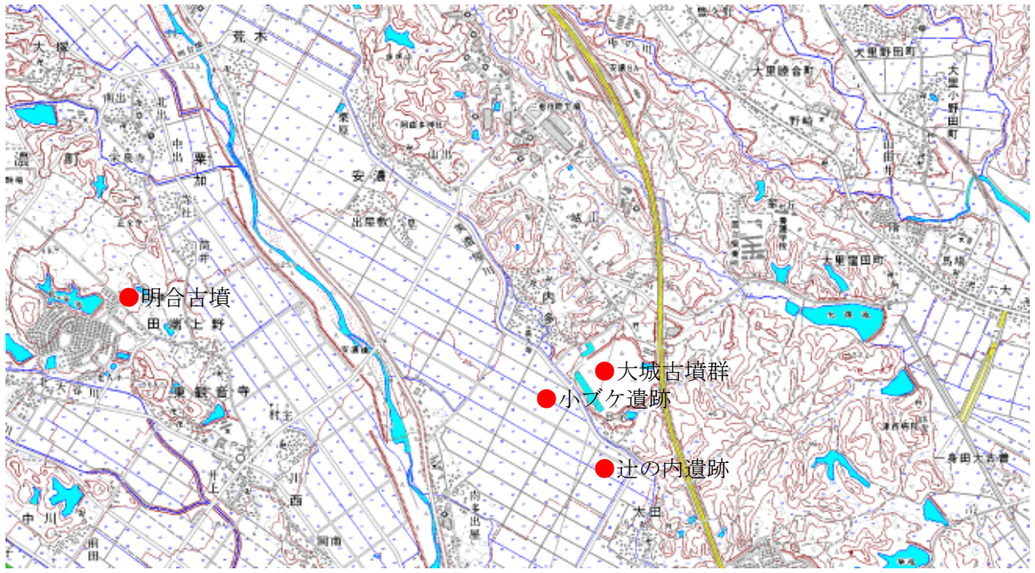


小ブケ遺跡位置図
（国土地理院数値地図１：25,000「椋本」を使用）

【おわりに】

今回の調査は下水道工事に伴って実施したもので、発掘調査面積も決して大きくはありません。しかし先に述べたように、この地は生活をするにはとても恵まれた場所で、古来より営まれてきた人々の生活の一端を垣間見ることができたことは大きな成果であります。

またこの下水道工事に伴う発掘調査は上流に向けてしばらく続きますが、今回の発掘調査現地説明会が、安濃川流域における人々の歴史に触れていただく機会になればと思います。

調査遺跡名	小ブケ遺跡
所　在　地	三重県津市安濃町内多
調査面積	４８６㎡
調査期間	平成 25 年 9 月 18 日～11 月 15 日
原因事業名	平成 25 年度中勢沿岸流域下水道安濃北幹線管渠工事
調査実施機関	三重県埋蔵文化財センター

小ブケ遺跡現地説明会資料

～津市安濃町内多～

２０１３年１１月９日
三重県埋蔵文化財センター

調査風景

【はじめに】

小ブケ遺跡は、北に見当山丘陵が、南西に安濃川が流れる沖積平野に位置しています。南東に 300m行くと辻の内遺跡があり、そこでは縄文時代や弥生時代の土器のほか、竪穴住居が見つかっています。そして、現在の美濃屋川をはさんだすぐ北には、大城古墳群があり、安濃川をはさんだ南側には国指定史跡の明合古墳があります。また、長谷山には大規模な長谷山古墳群も広がっています。平安時代後期には安濃郡の条里に伴う区割りがされていました。中世には安濃郡を支配していた長野氏の一族の居城である安濃城が築かれています。つまり、ここ安濃町一帯は古くは縄文時代から現代に至るまで人々の生活が営まれてきた非常に恵まれた地ということができます。

それでは、調査によって見つかった内容を見ていきましょう。

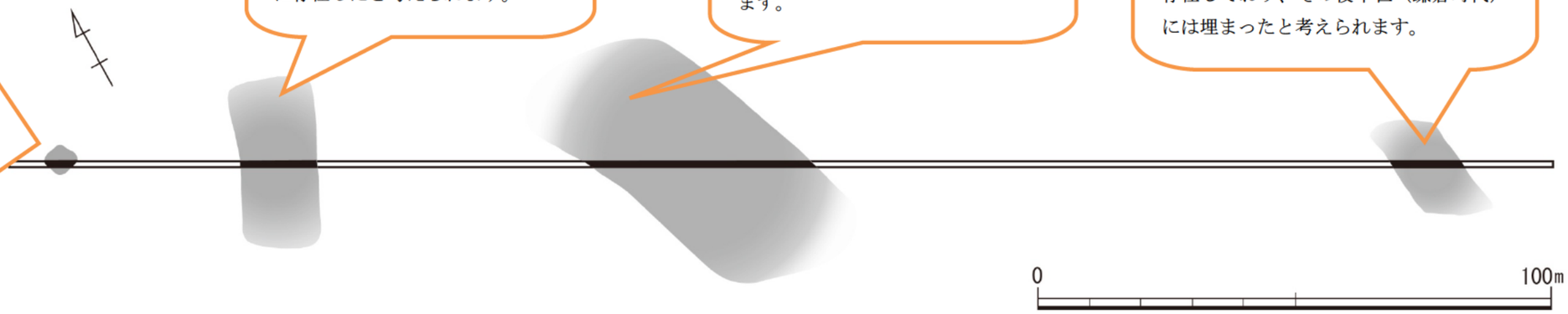
調査区

竪穴住居
　弥生時代後期後半から古墳時代初頭（今から約 1800 年前）の竪穴住居です。竪穴の周りには壁周溝（排水用の溝）があり、写真中央やや左には石が置かれた炉があります。中央の穴は主柱穴（屋根を支える柱）とみられます。

自然流路 1
　幅約 10mの川で、多数の土器が出土しました。竪穴住居と同じ時期に存在したと考えられます。

自然流路 2
　幅約 30mの川です。これも竪穴住居と同じ時期に存在したと考えられます。

自然流路 3
　幅約 10mの川です。調査で分かった自然流路はいずれも竪穴住居と同じ時期に存在しており、その後中世（鎌倉時代）には埋まったと考えられます。



出土遺物

縄文土器
　突帯文土器（口縁部に帯状の粘土を貼りつけたもの）と呼ばれる縄文土器で、縄文時代晩期（今から約 3000 年前）のものです。

台付甕
　底部に台がついた甕で、煮炊きに使用されました。弥生時代後期後半（今から約 1800 年前）から古墳時代中期（今から約 1500 年前）のものが出土しています。

○高坏（脚部）
　脚部のついた椀・杯で、供え用や食事用に使用されました。弥生時代後期後半（今から約 1800 年前）から古墳時代中期（今から約 1500 年前）のものが出土しています。

○器台
　壺などを乗せる台です。弥生時代後期後半（今から 1800 年前）のもので、祭祀に用いられたと考えられ、墓との関係もあるかも知れません。

○はそう
　古墳時代のもので、穴に竹などの管を通して、液体を注いだと考えられています。写真左が土師器で、右が須恵器です。